

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習B (DA202)			担当教員	坂本雅俊		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>授業は年間を通してすすめる演習プログラムを用いて行う。そのため学生が、演習プログラムに参加することで、専門性を軸に人間性を豊かにする諸能力を身に付けることをねらいとする。</p> <p>1、演習室においてゼミ形式の授業を行う。社会に必要な「パフォーマンス」の力を身に付ける</p> <p>2、福祉施設へ出かけて行きボランティア公演研修を行うことで、利用者の生きがいづくりに寄与するとともに、利用者の真の姿を知る。</p>							②④⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	生きがいを求める福祉利用者の課題に対して、公演を通して解決を図ることができる。					授業での意見交換と公演	10%
情報収集、分析力	福祉施設利用者のニーズを分析し自己及び社会の成長に役立てることができる。					授業での意見交換	10%
コミュニケーション力	ボランティアシップに基づいて、多様な人々と文化的交流を図ることができる。					公演研修	40%
協働・課題解決力	地域を巻き込んで、アートな創作活動に携わることができる。					公演研修	30%
多様性理解力	利用者とのアート活動を通して、共生社会を実現することができる。					授業での意見交換	10%
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>自分の意見を発表すること。その代表的な発表を授業中にフィードバックし学生間で共有する。授業で行うワーキング、情報を収集、多様性の理解で30%、課題解決の意見交換と公演研修により70%を評価する。振り返り発表会を行い、達成度として評価する。</p>							
授業の概要							
<p>演劇ボランティア公演を創作研修する。舞台づくりは裏方も含めて観客と一緒に特別な空間場面を創る。役者は「言葉のキャッチボールと体の動き」による表現者として、SWとして必要な人間的距離感を獲得することができる。こうした体験型の授業を通して、適時、教師が介入を繰り返すことで、学生個々の自己成長を促す授業である。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：小室豊允編集代表『高齢者施設用語事典』（2007）中央法規</p> <p>参考書：九州社会福祉研究会編（2019）『現代福祉用語辞典』学文社</p> <p>指定図書：関家新助（2004）『西洋哲学思想と福祉』中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>2年生だからこそできる様々なボランティアを体験してください。そのことが将来にソーシャルワーカーとなったとき、プロフェッショナルとしての「アイデンティティ」を抱くことにつながります。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期のゼミの運営方針を知る。	学修についての後期の計画を共有する。
2	社会福祉のレポートについて	レポート作成のための資料の検索方法について理解できる。原著論文を書写して提出できる。	予習：統計資料を読む。 復習：書写する。
3	ボランティア公演における落語劇	福祉ボランティア公演の全体の流れを構成した上で練習できる。	予習：落語劇を調べる。 復習：企画書を作成する。
4	ボランティア公演の準備	福祉ボランティア公演の題目と脚本を決め練習できる。リハーサルできる。	予習：段取りを行う。復習：備品など点検する。
5	ボランティア公演の練習	リハーサルを行う。皆で協力して練習ができる。	予習：自分の役をしっかりと確認する。復習：練習を重ねる。
6	ボランティア公演出張(1回)	時代劇衣装の扱いや舞台での礼節を理解し、福祉ボランティア公演を行うことができる。	予習：個人リハーサル 復習：思い出を振り返る。
7	ボランティア公演の振り返り	福祉まつりや高齢者との交流会へ参画することができる。	予習：時代考証を反省する。復習：企画を改善修正する。
8	次回のボランティア公演における時代劇と落語劇	次回の福祉ボランティア公演の全体の流れを企画できる。	予習：準備に備える。 復習：思い出を振り返る。
9	次回のボランティア公演の準備	次回の福祉ボランティア公演のリハーサルを行うことができる。	予習：次回企画を考える。 復習：心の準備を行う。
10	次回のボランティア公演の練習	時代劇衣装の扱いや舞台での礼節を理解できる。	提供資料を読む。図書館で論文検索を行いレジュメを作成しまとめる。
11	ボランティア公演出張(2回)	福祉ボランティア公演を行う。	予習：練習を行う。 復習：反省点を確認する。
12	ボランティア公演の振り返り	福祉まつりや高齢者との交流会へ参画する。	予習：利用者との交流をイメージする。復習：今後の課題を考える。
13	2回のボランティア公演のまとめ	2回実施した公演から、利用者の生きがいへの寄与とその効果について考えることができる。	予習：写真や映像で振り返る。復習：反省点と成長したことを文章化する。
14	前期の振り返り	後期に身に付けたボランティア公演の技能を振り返る。学修内容を言葉で表し文章化する。	予習：提供資料を読む。復習：討論後の資料をまとめる。レポート作成。
15	前期・後期の総まとめ	振り返りと総括、今後の方向を話し合う。	振り返りと発表。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DA202)			担当教員	中村 龍文		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉を学ぶ者にとって、医学の知識は必要不可欠なものである。専門力、情報収集・分析能力、コミュニケーション力、協働・課題解決力および多様性理解力の獲得を目指して、医学と関連した人体の生理機能、健康、保健、疾病の予防などの分野で社会福祉に関係する様々な興味ある項目について、ゼミ生自身が主体となって、テーマを選び、関係した資料を収集し、それらをもとにまとめ、わかりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標とする。さらに、論文執筆の基礎について学ぶ。</p>							④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 自分のテーマについて、重要な箇所を指摘できる。 論文の形式、構成について説明することができる。 グループディスカッションにおいて、問題点を指摘できる。 				<ul style="list-style-type: none"> 自己の発表 課題レポート グループ発表 	5% 5% 5%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 図書館で文献検索ができる。 収集した文献を読み内容を分析できる。 インターネットを活用した、資料の収集ができる。 				自己の発表	15%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 自分のテーマについて、論理的に発表することができる。 グループディスカッションに参加し、十分に討議できる。 				<ul style="list-style-type: none"> 自己の発表 グループ発表 	20% 20%	
協働・課題解決力	自分が選んだテーマに関して、社会福祉的側面からある一定の見解を持つことができる。				課題レポート	20%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだテーマに関連した分野のことも理解ができる。 グループディスカッションにおいて、内容を十分に理解できる。 				グループ発表	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験は行なわない。自分で決定した発表のテーマについて課題レポート(25%)を作成し、どれ位深く掘り下げて調べているか、また自己の発表(40%)でのプレゼンテーションにおいてどれ位わかりやすくまとめているかが評価の基準となる。また、グループディスカッション(35%)の内容についても評価したい。その都度フィードバックを行い確認する。</p>							
授業の概要							
<p>将来の卒業研究に向けて、その基礎的な学習として発表用のテーマの選択、文献・資料の収集の方法、発表用のレジユメのまとめ方などを学ぶ。各ゼミ生によるプレゼンテーションが行われた後に、ゼミの全員によるディスカッションを行う。プレゼンテーション担当者は、質疑に耐えられるよう準備を行わなければならない。また、病院など実際の医療機関への訪問、医療ソーシャルワーカーなどの医療福祉職の方々との意見交換の場も持ちたい。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：とくに指定しない。 参考書：必要なものは適宜紹介する。 指定図書：大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法 改訂第二版 玉川大学出版部</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>教員の講義を学生が聴くという一方通行の授業では無く、ゼミの学生が主体的に何事も進めていって欲しい。プレゼンテーションの資料作りのために可能な限り図書館を利用してほしい。また、インターネット検索を含めた色々な文献検索の方法も習得して欲しい。社会の状況にも常に目を向けて欲しい。そのためには、色々な新聞やニュースを通して社会の大きな流れをつかんで欲しい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門基礎演習 B のスケジュール計画	ゼミの進め方について、全員の意見を基に計画を立てる。	復習：スケジュール案を自分なりに考える。
2	テーマの選定について	テーマの発表について、各自のテーマの選定と発表順番を決定する。	予習：自分の発表テーマを確認する。
3	テーマの発表、グループディスカッション①	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
4	テーマの発表・グループディスカッション②	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
5	テーマの発表・グループディスカッション③	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
6	テーマの発表・グループディスカッション④	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
7	テーマの発表・グループディスカッション⑤	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
8	テーマの発表・グループディスカッション⑥	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマについての下調べ。
9	論文執筆の基礎①	学術論文にならない文章、論文の書式について学ぶ。	復習：論文の書式について確認する。
10	論文執筆の基礎②	論文構成（序論、本論、結び、文献リスト）を学ぶ。	復習：論文構成について確認する。
11	論文執筆の基礎③	論文のテーマ(主題)決定の考え方について学ぶ。	復習：テーマ決定について確認する。
12	医療施設訪問①	佐世保市内の医療施設で最新の医療機器等の見学実習。	復習：医療施設での知識をまとめる。
13	医療施設訪問②	佐世保市内の医療施設で最新の医療機器等の見学実習	復習：医療施設での知識をまとめる。
14	外部講師講演	医療福祉職の方々の現場でのお話を伺う。	予習：外部講師の質問を考える。復習：講演内容をまとめてみる。
15	全体のまとめ	ゼミを振り返り、各自の反省点、達成点をそれぞれレポートにまとめる。	復習：反省点、達成点の確認を行う。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習B (DA202)			担当教員	石橋 亜矢		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では福祉職を学ぶ者として、医学と関連した人間とは何かの理解を前提に、その人らしく生きる意味は何か、そのために必要とされる権利は何か、根拠を基にゼミ生全員で考える力を養いたいと考える。卒業研究の基盤となるように、基本的な研究過程および方法論に関する知識修得の為に、テーマに応じた課題の追及、クリティーク能力、ディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的なスキルの修得を目標とする。この演習を通して他の意見を傾聴するとともに自分の考えを明確にした上で、意見交換を行い、相互理解を図ることができることをねらいとする。</p>							②④ ⑥⑦ ⑧⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	・3福祉士に求められる課題についてエビデンスを追及し、具体的な解決策を整理し見いだすことができる。				プレゼンテーション、レジュメ作成	10% 10%	
コミュニケーション力	・福祉職としての役割や機能・連携（調整力）に関する知識を体系的に学習することができる。 ・常に人権を尊重した行動ができ、共によりよいゼミを創造していける豊かな感性を磨くことができる。				授業態度・参加	55%	
協働・課題解決力	・3福祉士において意義ある研究課題を探り、自主的に学習することができる。 ・メンバーと協働し共に考え、アサーティブなディスカッションを行うことができる。				ディスカッション参加 課題レポート	15% 10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業態度・参加」(55%)、「ディスカッション参加」(15%)とし、主体的な参加とアサーティブな姿勢を評価する。「課題レポート」(10%)を課し、本演習の課題、予習・復習のまとめをポートフォリオを通して、フィードバックを行い学生と共有する。発表は、担当した「レジュメ作成」(10%)及び、「プレゼンテーション」(10%)の内容で評価をする。</p>							
授業の概要							
<p>本演習の授業形式は、自主的な学習成果の発表および討議による授業形態をとるので、学生の主体的な準備の基に、進めていきたい。福祉職の実習準備をグループで整理したり、且つ卒業研究の基礎的な知識の修得に繋げるために科学的方法を学び、文献レビューを深める為に、講読・プレゼンテーション・ディスカッションを行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>参考書：『パソコンで進めるやさしい看護研究』富田真佐子著 保育社 『よくわかる看護研究論文のクリティーク』山川みやえ著 日本看護協会出版会 ※演習の内容やテーマに応じて必要な資料・文献は、適宜紹介する。 指定図書：『トラベルビー人間対人間の看護』長谷川浩著 医学書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習のゼミでは、専門的な知識や技術は勿論だが、人と人、心と心を通わせる専門職としての、感性が最も大切である為、その能力を活用していきたいと考える。 地道な努力により成長できる事を信じ、一人一人が楽しめる様な工夫を考え 共によりよいゼミを創造していける力を養って欲しい。更に、ゼミ生は仲間でもありライバルでもある事を認識し、芯の強さを持ちゼミの目標に向かって計画的に前進されることを強く望む。 注意点：やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指導を受けること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介 ゼミのあり方・進め方について説明 ゼミリーダー等の役割を決め、今後の方針と計画を立案する	予習：シラバスの確認 復習：半期のスケジュールを組み立てる
2	オリエンテーション②	半期計画を作成し、確認する テーマに沿ったレジュメ作成と発表者を決める	予習：半期の計画案を考える 復習：レジュメ作成、 社福国試31回を学修
3	文献講読①	課題のレジュメ作成と口頭発表（発表者）を行い、 それについてディスカッションをする	予習：レジュメ作成と発表準備をする 復習：ディスカッション内容をまとめる、 国試31回を学修
4	文献講読②	課題のレジュメの作成と口頭発表（発表者）を行い、 それについてディスカッションをする	予習：レジュメ作成と発表準備をする 復習：ディスカッション内容をノートに整理する、 国試31回を学修
5	福祉職を理解する①	社会福祉実習現場の概要を発表し、それについてディスカッションを行う 国家試験問題を行う（社福31回分）	予習：発表資料を作成する 復習：ディスカッションでの不足分を整理する、 国試31回を学修
6	福祉職を理解する②	急性期・慢性期、病院・施設の社会福祉士の違いについて調べ、プレゼンテーションを行い、それについてディスカッションをする 国家試験問題を行う（社福31回分）	予習：資料を作成する 復習：ディスカッションでの不足分をノートに整理する、 国試31回を学修
7	社会福祉施設の現場を理解する①	福祉専門職の業務を知り役割について学ぶ	予習：見学施設の概要を調べる 復習：課題レポートの作成、 国試30回を学修
8	社会福祉施設の現場を理解する②	福祉専門職として必要な事柄を整理し発表する	予習：発表資料の作成 復習：学びを整理する、 国試30回を学修
9	ゼミ生間との交流	ゼミ間での交流内容・根拠を考え実施する	予習：ゼミ間交流を考える 復習：成果を考え整理する、 国試30回を学修
10	進路について①	キャリアセンターより就職ガイダンスの実行	予習：進路について整理 復習：就職ガイダンスの内容を確認する、 国試30回を学修
11	進路について②	個人面談を行う（石橋） 国家試験問題を行う（社福30回分）	予習：面談内容を整理しておく 復習：国家試験30回を学修
12	進路について③	個人面談を行う（石橋） 国家試験問題を行う（社福29回分）	予習：面談内容を整理しておく 復習：国家試験29回を学修
13	全体会	次年度のゼミ紹介等の説明	予習：次年度のゼミ担当を決める 復習：本日の説明を整理する、 国試29回を学修
14	発表会	1年間の振り返りを発表 プレゼンテーション1人7分行いディスカッションをする	予習：発表準備を行う 復習：来年度の整理をする、
15	後期のまとめ	最終レポートを作成し提出 2年次の学びと課題、次年に向けての抱負を発表	復習：3年次の目標設定

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DA202)			担当教員	ヴィラーク ヴィクトル		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、引き続きグローバルな視点の習得と人間の多様性に対する感受性の向上を目指す。そのために必要な思考力・判断力・表現力を、参加型学習を通じて身につけていく。</p> <p>後期は、文化及び性の多様性に対する理解を深め、特に日本の先住民族等の歴史的な少数民族と、LGBTQ等のセクシュアル・マイノリティについて学ぶ。その中で、このような多様性に配慮したソーシャルワークの基礎知識を得る。</p>							①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	文化及び性の多様性に関する資料を解釈できる。				小レポート	20%	
コミュニケーション力	文化及び性の多様性について調べ、伝えることできる。 文化及び性の多様性について自分の言葉で表現できる。				グループ発表 課題レポート	30% 30%	
協働・課題解決力	文化及び性の多様性に関するグループ活動に参加できる。				グループワーク	20%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題レポート (30%) では、国際的な社会問題に関する知識の習得度を評価する。グループ発表 (30%) では、分担する課題について適切にまとめられるかを評価する。小レポート (20%) では、自分の考えを適切にまとめられるかを評価する (文字数不足及び誤字、脱字は減点の対象となる)。グループワーク (20%) では、ディスカッション等への参加態度と貢献度を確認する。</p> <p>必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習では、上記の狙いに沿って、教員が提供する資料 (文献、ミニレクチャー、映像、統計データなど) を基に、参加型ワークとして履修者同士でグループ作業 (ディスカッション、発表、ディベートなど) に取り組む。</p> <p>具体的には、日本の先住民族 (アイヌ民族、琉球民族) の歴史、文化、人口統計的な特徴、生活課題等と、LGBTQ等と性的少数者の基礎知識を学ぶ。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：レジュメ等を配布する。</p> <p>参考書：適宜照会する。</p> <p>指定図書：安保則夫・ほか編 (2005) 『クロスボーダーからみる共生と福祉』 ミネルヴァ。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>日本の社会福祉教育で十分に扱われないテーマを取り上げるため、興味・関心のある学生の履修を期待する。</p> <p>なお、授業内外のグループワーク及び個別ワークが求められるため、その点を十分に考慮した上で選択することを勧める。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	文化の多様性①	現代日本社会における文化的な多様性 統計データの分析	予習：日本の住民の文化・民族 についてイメージをまとめる。 復習：配布資料を分析する。
2	文化の多様性②	戦前日本社会の文化的な多様化の歴史 子ども移民ソーシャルワーク実例の映画上映 (前半)	予習：「日本とは何か」について イメージをまとめる。 復習：各自で意見文を書く。
3	文化の多様性③	子ども移民ソーシャルワーク実例の映画上映 (後半) 貧困対策と移民送り出しについてディスカッ ション	予習：日本の移民送り出し政策 について調べる。 復習：各自で意見文を書く。
4	文化の多様性④	戦後日本社会の文化的な多様化 グループ報告に向けて打ち合わせ	予習：周辺地域の文化的な多様 化について調べる。 復習：疑問点を調べる。
5	文化の多様性⑤	大学周辺地域（佐世保市や長崎県など）の文化 的な多様性及びその歴史についてグループ報告 の作成	予習：グループ報告の準備をす る。 復習：グループ報告をまとめる。
6	文化の多様性⑥	大学周辺地域（佐世保市や長崎県など）の文化 的な多様性及びその歴史についてグループ報告	予習：グループ報告を練習する。 復習：各自で意見文を書く。
7	文化の多様性⑥	アイヌ民族とアイヌモシリの植民地化（ミニレ クチャーと映像上映）	予習：日本の先住民族について 調べる。 復習：疑問点を調べる。
8	文化の多様性⑦	先住民族の映画上映（前半）	予習：ヨーロッパの先住民族に ついて調べる。 復習：疑問点を調べる。
9	文化の多様性⑧	先住民族の映画上映（後半） 映画の中の事例と支援に関するディスカッ ション	予習：先住民族の同化政策につ いて調べる。 復習：各自で意見文を書く。
9	文化の多様性⑨	琉球民族と琉球王国の植民地化についてグルー プ報告の作成	予習：グループ報告の準備をす る。 復習：グループ報告をまとめる。
10	文化も多様性⑩	琉球民族と琉球王国の植民地化についてグルー プ報告	予習：グループ報告を練習する。 復習：各自で意見文を書く。
11	性の多様性①	性の多様性に関する基礎知識、国連映像上映 当事者運動の映画上映（前半）	予習：LGBTQ等の概念を調べる。 ※ 文化的な自己分析を授業内 で提出する。
12	性の多様性②	当事者運動の映画上映（後半） 映画内のソーシャルアクション技法の共有	予習：映画内のソーシャルアク ション技法を集める。 復習：疑問点を調べる。
13	全大会	専門演習のオリエンテーション	予習：演習選択の基準を決める。 復習：問題関心についてまと める。
14	性の多様性③	性の多様性に配慮したソーシャルワークの基礎 日本の当事者による手記の共有、ディスカッ ション	予習：配布資料を読む。 復習：各自で意見文を書く。
15	性の多様性④	同性婚に関するディベート	予習：ディベートに向けて、各 グループ内で、国内外を問わず、 同性婚の賛否について調べる。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DA202)			担当教員	斐 孝承		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習は「高齢者福祉」をテーマとして扱う。援助の必要性の有無の関わらず、高齢者に関わる社会問題について各自関心のある問題を取り上げ、その問題の背景、現状、対応策についてプレゼンテーションを行う。実際に発表するまでのプロセスにおいて、レポートや卒業論文作成のスキルを身につける。							②③④ ⑤⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	高齢社会の現状や高齢者に関わる課題について理解し、説明することができる。				発表・ディスカッション・レポート		20%
情報収集、分析力	資料を収集し、高齢者に関わる課題についてその要因、対応策について考察することができる。				発表・ディスカッション		20%
コミュニケーション力	受講生同士わからないことや自分の考えを伝えることができる。				発表・ディスカッション		25%
協働・課題解決力	他の受講生の発表内容に積極的に質問したり、自身の報告時に質問に答えることで報告内容について理解を深め問題意識を共有できる。				資料作成・ディスカッション		25%
多様性理解力	様々な生活課題を抱える高齢者及び、その高齢者を取りまく環境について理解を深める。				ディスカッション・レポート		10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
本演習では、授業の参加度、資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションの態度や内容、授業内に記述する期末レポートを評価の対象とする。授業内でディスカッションのフィードバックを行う。							
授業の概要							
受講生各自が関心を持つ「高齢者福祉」に関する問題を報告することを通して、プレゼンテーションの仕方、資料のまとめ方を学ぶ。さらに、学術論文の読み方についても学び、今後の卒業論文執筆の基礎的な能力を身につけることを目標とする。 授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に定めない 参考書：田中共子編（2019）『よくわかる学びの技法 第3版』ミネルヴァ書房 指定図書：木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）筑摩書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では「高齢者福祉」に関して受講生が関心を持ったテーマでプレゼンテーションを行う。それぞれの受講生が報告する課題について、互いに理解を深め議論することによって、問題意識を涵養してもらいたい。高齢期の生活課題は誰しもが直面する課題である。将来、高齢者福祉分野での就職を考えている人や高齢者の抱える生活課題に関心を持っている人はもちろん、まだ将来について漠然と考えている人も、自身の問題としてこの演習に臨んでほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、今後の予定、本演習の進め方について説明する。	予習：特になし 復習：授業で説明したことを確認する
2	プレゼンテーションの仕方を学ぶ①	プレゼンテーションの仕方について講義と演習。	予習：事前配布資料を読む 復習：授業説明したことを確認する
3	プレゼンテーションの仕方を学ぶ②	プレゼンテーションの仕方について講義と演習。	予習：事前配布資料を読む 復習：授業で説明したことを確認する
4	図書館の使い方・文献を探す	資料収集、文献検索の仕方について学ぶ	予習：事前配布資料を読む 復習：授業で説明したことを確認する
5	発表資料の作成	各自自分の関心のあるテーマについて資料作成。資料はポートフォリオにアップする。	予習：特になし 復習：資料収集・文献検索の方法を確認する
6	プレゼンテーションとディスカッション①	受講生各自の関心のあるテーマについてプレゼンテーションとディスカッション。	予習：関心のあるテーマについて資料収集 復習：作成した発表資料の確認と修正
7	プレゼンテーションとディスカッション②	受講生各自の関心のあるテーマについてプレゼンテーションとディスカッション。	予習：事前配布資料を読む 復習：発表された内容について確認する
8	プレゼンテーションとディスカッション③	受講生各自の関心のあるテーマについてプレゼンテーションとディスカッション。	予習：事前配布資料を読む 復習：発表された内容について確認する
9	プレゼンテーションとディスカッション④	受講生各自の関心のあるテーマについてプレゼンテーションとディスカッション。	予習：事前配布資料を読む 復習：発表された内容について確認する
10	論文執筆の仕方を学ぶ①	学術論文を読み、論文の構成を理解する。	予習：事前配布資料を読む 復習：発表された内容について確認する
11	論文執筆の仕方を学ぶ②	論文執筆の仕方について講義・演習。	予習：事前配布資料を読む 復習：授業説明したことを確認する
12	高齢社会における活動①	社会活動（ボランティア）を通して、高齢社会について理解する	予習：事前配布資料を読む 復習：授業説明したことを確認する
13	高齢社会における活動②	社会活動（ボランティア）を通して、高齢社会について理解する	予習：事前配布資料を読む 復習：授業説明したことを確認する
14	後期授業内容の振り返り①	後期の演習で学んだことをレポート（期末レポート）にまとめる。資料はポートフォリオにアップする。	後期の授業内容を振り返る
15	後期授業内容の振り返り②	レポートの内容を受講生同士で共有し、今後に向けて自身の新たな課題を見つける。	この授業で得たことを振り返り、自身の課題にどう取り組むか考える

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉の実践においては、幅広い教養や知識と豊かな人間性を持ち、多角的な視点でクライアントを捉えることが重要である。本演習では、社会福祉実践の基礎となる専門職者の豊かな人間性や介護福祉、社会福祉、精神保健福祉等の専門職者として必要な知識を題材として取り上げ、文献や資料の検索、文献の購読等をもとに自身の考えをまとめ、ディスカッションやプレゼンテーションができるようになることを目的とする。また、専門基礎演習 AB の学習内容を踏まえて、自身の特性を理解したうえで、将来の進路について具体的に考えることができることも目的の1つとする。</p>							①④⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・社会福祉の領域で自身の関心に合わせたテーマ設定ができ、わかりやすく簡潔に説明することができる。				プレゼンテーション	10%	
情報収集、分析力	・自身の関心に合わせた文献検索等の情報収集を行うことができ、問題や課題を明確にすることができる。				プレゼンテーション ディスカッション	10%	
	・収集した情報について理解し、分析することができる。 ・インターネットを活用して情報集ができる					5%	
コミュニケーション力	・自身が調べた内容や意見をわかりやすく他者にプレゼンテーションできる。				プレゼンテーション	20%	
	・他者のプレゼンテーションの内容に関心を持ち、自身の意見を踏まえて質問することができる。				ディスカッション	20%	
					グループ課題	10%	
協働・課題解決力	・グループの課題に責任感を持って参加することができ、役割を自覚して活動することができる。				グループ課題 ディスカッション	10% 10%	
多様性理解力	・自身の考え方や意見の傾向性を踏まえて、違う意見を受け入れることができる				ディスカッション	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験は行わず、15回の授業内で行うグループ課題 20%、プレゼンテーション 40%、ディスカッション 40%で評価する。レポート課題については、演習前半で提示するグループでのレポート課題への取り組みと貢献度をもとに評価する。発表（プレゼンテーション）は、各学生が自身の興味関心に沿ったテーマで作成したレジュメと当日のプレゼンテーション内容で評価する。ディスカッションについては、ディスカッションの際に主体的にかつ責任感を持って参加できているかどうか、また互いの立場を尊重したコメントができているかどうかで評価する。課題や発表内容については、授業内にてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>ゼミ形態での授業を基本とし、グループ課題やディスカッションを多く取り入れる。前半は、指定した介護福祉、社会福祉、精神保健福祉等に関連するテーマについてグループで協力して課題レポートを作成する。レポート作成に取り組む中で、文献・資料の検索方法や、レジュメ・レポートのまとめ方について体験的に理解する。後半は、各学生の興味関心に沿ったテーマを選び、それぞれの関心に沿ってレジュメを作成して発表する。レジュメ作成・発表の過程において、自身の興味関心を深め、他者に伝わりやすいプレゼンテーションの方法を学ぶ。また、グループ課題や、発表内容に関するディスカッションを通して、学生同士の意見交換を積極的に行い、学びをより深め合う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：必要に応じて配布か適宜指示を行う。 指定図書：石井一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』（2011）ナツメ社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>授業に主体的にかつ責任感を持って参加することを期待する。受講生同士の関わり合いを通して、自身の学びや考えを深め卒業研究に向けての意欲と知識、研究基礎力を身につけてほしい。そのため、授業全体を通して他の学生の意見を尊重しつつ自身の考えを積極的に主張することを心掛けてほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習の進め方や、評価方法について確認する。また、前期での取り組み・夏休みの生活を振り返り、後期のスケジュールと個人目標を確認・作成する。	予習：夏休みを振り返り、後期スケジュール・個人目標をイメージしておく
2	発表テーマの選定	自身の興味関心のあるテーマについてキーワードを見つけ、関連する文献・書籍等を検索、発表時に使用する題材を選定する。	予習：自身の興味関心のあるテーマについてのキーワードをあげておく 復習：文献・書籍の選定
3	発表（プレゼンテーション） ①	作成したレジュメをもとに発表（プレゼンテーション）し、発表内容についてのディスカッションを行う。	予習：（担当者）自身の選定した題材についてのレジュメを作成する 復習：（担当者）ディスカッションでの指摘について自分の考えをまとめる
4	発表（プレゼンテーション） ②	作成したレジュメをもとに発表（プレゼンテーション）し、発表内容についてのディスカッションを行う。	（受講生）発表内容をもとに自身の考えとの相違点について検討する
5	発表（プレゼンテーション） ③	作成したレジュメをもとに発表（プレゼンテーション）し、発表内容についてのディスカッションを行う。	
6	文献購読①	指定されたテーマに関する文献を購読し、ディスカッションを行う。	次回のテーマについて調べておく
7	文献購読②	指定されたテーマに関する文献を購読し、ディスカッションを行う。	次回のテーマについて調べておく
8	文献購読③	指定されたテーマに関する文献を購読し、ディスカッションを行う。	次回のテーマについて調べておく
9	文献購読④	指定されたテーマに関する文献を購読し、ディスカッションを行う。	次回のテーマについて調べておく
10	進路について①	これまでの学習、発表内容等についての省察を加え、自身の考えを整理する。まとめた考えを発表するための準備を行う。	発表の準備を行う
11	進路について②	それぞれの発表を踏まえて、自分自身のコミュニケーションの取り方や、自分自身のクセ等について理解し、自身の進路について考える	自分自身の進路についてまとめておく
12	進路について③	自身が考えた進路に関して発表を行い、ディスカッションを行う。ディスカッションで得られた他者からの意見をもとに、必要であれば自分の進路を修正する	修正した自身の進路に関して考えをまとめる
13	進路について④	3年生ゼミについてのプレゼンテーションを聞き、進路選択を行う。実習や就職について具体的にイメージし、自身の進路について考える。	予習：進路選択についての自身の考えを整理しておく
14	後期のまとめ	実習や就職について具体的にイメージし、自身の進路について考える。後期に作成したスケジュール・目標をもとに、学生個々人の達成点、課題点について振り返る。	予習：後期スケジュール・目標の再確認 復習：前期の振り返り
15	2年次のまとめ	2年生時の学び全般についてのまとめを行い、3年次での取り組みを明確にする。	予習：3年次で取り組みたいことを具体的にイメージしておく

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DA202)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習の目的は、生活支援を通して子どもの人権を護る、児童ソーシャルワークに必要となる基本的考え方(価値)と知識を習得することにある。ディプロマポリシーに掲げられる社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を行う。</p> <p>後期においては、子どもの意見表明権・参加する権利を生活の視点から捉え、ソーシャルワークの事例から子どもとの協働の進め方やポイントを学ぶ。</p> <p>このような学修を通じて、子どもの参加する権利を尊重したソーシャルワークの実践基盤を得る。</p>							①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	子どもの意見表明権・参加する権利に関する情報を収集し、解釈したことを文章や図表で示すことができる。				第4回・第9回小レポート	15%	
コミュニケーション力	ICTを活用した子どもとの協働事例について調べた結果を、プレゼンテーションを通じて他者に伝えることができる。 子どもの意見と参加を重視したソーシャルワークについて学んだ成果を、自分の言葉で表現することができる。				第13回グループ発表 期末課題レポート	30% 30%	
協働・課題解決力	子どもの意見・参加をテーマとしたグループ活動に、主体的に参加することができる。				グループワーク	25%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>期末の課題レポート(30%)では、子どもの意見や参加を重視したソーシャルワークに関する学びの習熟度を評価する。グループ発表(30%)では、分担する課題について適切にまとめ、他者に情報を伝えることができるかを評価する。小レポート(15%)では、レポート作成のルールを守った上で、自分の考えについて適切に文章表現をすることができるかを評価する。グループワーク(25%)では、ディスカッション・作業等への参加態度とグループへの貢献度を重視する。</p> <p>必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内においてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習では、上記のねらいに沿って、担当教員が参考文献、視聴覚資料、統計資料等をもとに情報提供を行う。それらを踏まえ、受講生がグループワーク(ディスカッション、発表等)に取り組む参加型の授業である。</p> <p>具体的には、子どもの意見や参加を重視したソーシャルワークをテーマとし、事例検討・事例紹介を行うとともに、受講生にも具体的事例を調べ、プレゼンテーションをしてもらう。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業内で配布する資料を用いる。</p> <p>参考書：適宜紹介する。</p> <p>指定図書：小口尚子・福岡鮎美(1995)『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』小学館。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>児童福祉分野の価値基盤となる子どもの権利をテーマとして取り上げるため、児童福祉やスクールソーシャルワーク等、子どもの生活支援に興味・関心のある学生の履修を期待する。</p> <p>授業内外のグループワーク及び個別ワークが求められ、その取り組み状況が評価対象となるため、その点を十分に踏まえた上で選択することを勧める。</p> <p>なお、子どもとの協働事例やツールについては英語で提供されている場合が多く、それらの内容を把握するために、中学校・高等学校で学習する程度の英語を授業内で用いることがある。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	シラバスの説明を行う。 受講生の学びたいこと・期待すること等についてディスカッションを行う。	予習：シラバスを熟読し、本演習で学びたいこと・期待すること等を整理する。
2	子どもの意見表明権・参加する権利①	子どもの意見表明権・参加する権利について学ぶ。 社会的養護をテーマとした映画「少年と自転車」を視聴する。	予習：社会的養護に関する知識を整理する。 復習：子どもの意見や参加について考えたことを記録する。
3	子どもの意見表明権・参加する権利②	社会的養護をテーマとした映画「少年と自転車」(続き)を視聴する。 子どもの意見表明権や参加する権利について、各自の意見を整理する。	予習：子どもの意見を聴き参加を促す大人の役割について考える。 復習：映画の内容を踏まえ、自分の意見を文章化する。
4	子どもの意見表明権・参加する権利③	子どもの意見表明権や参加する権利をテーマに、ディスカッションを行う。 これらの権利が護られていない具体的生活場面について挙げ、整理する。 ※小レポート提示	予習：ディスカッションの準備をする。 復習：小レポートを作成する。
5	子どもとのケースワーク事例①	子どもと協働したケースワーク事例(出生前アセスメント)を検討し、子どもの意見や参加を大切にしたい支援のポイントを具体的に学ぶ。 事例をもとにグループワークを行う。	予習：ケースワークの概要について復習する。 復習：振り返りシートを作成する。
6	子どもとのケースワーク事例②	子どもと協働したケースワーク事例(不登校の子ども)の家庭訪問支援)を検討し、子どもの意見や参加を大切にしたい支援のポイントを具体的に学ぶ。 事例をもとにグループワークを行う。	予習：ケースワークの原則について復習する。 復習：振り返りシートを作成する。
7	子どもとのケースワーク事例③	子どもと協働したケースワーク事例(障害のある子ども)を検討し、子どもの意見や参加を大切にしたい支援のポイントを具体的に学ぶ。 事例をもとにグループワークを行う。	予習：ケースワークのプロセスについて復習する。 復習：振り返りシートを作成する。
8	子どもたちとのグループワーク事例①	子どもたちと協働したグループワーク事例(ひとり親家族の子ども)を検討し、子どもの意見や参加を大切にしたい支援のポイントを具体的に学ぶ。 事例をもとにグループワークを行う。	予習：グループワークの概要・原則について復習する。 復習：振り返りシートを作成する。
9	子どもたちとのグループワーク事例②	子どもたちと協働したグループワーク事例(病気の親を持つ子ども)を検討し、子どもの意見や参加を大切にしたい支援のポイントを具体的に学ぶ。 事例をもとにグループワークを行う。 ※小レポート提示	予習：グループワークのプロセスについて復習する。 復習：小レポートを作成する。
10	ICTを活用した子どもとの協働①	デジタル・ネイティブ世代の子どもと協働するためのツールとしてのICT活用について考える。 子どもの生活支援におけるICT活用事例(インターネット調査、情報提供、相談支援等)を紹介する。	予習：子どもたちのICT活用の現状について調べる。 復習：授業中に紹介したコンテンツを視聴する。
11	ICTを活用した子どもとの協働②	グループごとに、子どもの生活支援におけるICT活用事例を調べ、資料を作成する。	予習：ICT活用事例を調べる。 復習：役割分担に従い作業する。
12	ICTを活用した子どもとの協働③	グループごとに、子どもの生活支援におけるICT活用事例を調べ、資料を作成する。 次のプレゼンテーションに向けた準備を行う。	予習：グループでの打合せ内容について準備する。 復習：役割分担に従い作業する。
13	ICTを活用した子どもとの協働④	グループごとに調べた内容についてのプレゼンテーションを行う。 結果を全体で共有し、振り返りを行う。	予習：プレゼンテーションの準備を行う。 復習：振り返りシートに記入する。
14	子どもと協働するソーシャルワーカーの役割	これまでの授業内容を踏まえて、子どもと協働するために、ソーシャルワーカーに必要とされるものについてグループディスカッションを行う。	予習：ソーシャルワーカーの役割について考察する。 復習：ディスカッションの内容を整理する。
15	子どもの参加する権利を護るソーシャルワークの基盤	これまでの授業内容のまとめを行う。 ※課題レポートの提示	予習：これまでの授業の総まとめを行う。 復習：課題レポートを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 B (DA202)			担当教員	星野 秀治		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>家族制度や医療システムなどの社会制度は、それぞれの文化の多様性と普遍性を前提として成り立っている。本演習は、文化人類学による社会制度への分析を学ぶことで、人間や文化の多様性に対する理解を深め、多様な立場の人々と相互理解を図ることができるようになることを目標とする。また、文献の講読・演習を通じて、議論の仕方、プレゼンテーションの方法、資料の作成方法、文献・資料の検索方法などについても学び、今後の発表、卒業論文作成に必要なスキルを身につける。</p> <p>後期は、死の問題、個人と家族、コミュニティなどをテーマとし、様々な社会制度がどのような前提に基づいているかについての理解を深める。</p>							①②③ ⑤⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったテーマについて、資料を収集することができる。 問題について客観的に分析する姿勢をもつことができる 				レポート	30%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表し、議論することができる 文章で適切に表現することができる 				発表内容・資料 授業への参加度	40% 10%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 自分と異なる立場を尊重し、建設的な議論ができる。 				授業への参加度	20%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験は行わず、発表内容・資料（40%）、授業への参加度（30%）とレポート（30%）で評価する。発表や授業への参加度においては、議論の仕方、プレゼンテーションの方法、資料の作成等を評価する。レポートにおいては、資料収集、客観的な分析、自分の考えの掘り下げができたかについて評価する。必要に応じて、授業内外でコメントし、フィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習は、ゼミ形態での授業を基本とし、文化人類学や社会制度についての文献や資料を講読し、議論する。</p> <p>具体的には、テキストのテーマ（通過儀礼、病氣と医療、死生観、コミュニティなど）について、担当者に該当部分の要約等を報告（内容については事前に相談等にのります。また複数名による報告もありえます）してもらい、そのテーマについて、参加者全員で議論をするという流れをとる。担当教員は、キャリアコンサルタントとしての実務経験を持つので、キャリア支援の視点からのコメントも加える。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：波平恵美子編集（2011）『文化人類学（カレッジ版）』医学書院</p> <p>参考書：適宜指示する</p> <p>指定図書：松本茂ら著『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>文化人類学のテキストを議論の足がかりとするが、授業外でも、他の領域の専門書や、古典といわれる小説・映画にたくさん触れて欲しい。また、学生時代ならではの体験をたくさんして授業に還元して欲しい。</p> <p>みんなで議論しながら、お互いに、考える力を伸ばしていくことができたらと思っている。自分と異なる考えを尊重しつつ、自分の感じた小さな違和感を大切にしたい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	死の判定、医療と死	前期のスケジュールの策定し、報告分担を仮設定する 担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：7章Aを読む 復習：死の判定についての 振り返り
2	死体処理	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：7章Bを読む 復習：死体処理について振 り返る
3	死者儀礼	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：7章Cを読む 復習：死者儀礼について振 り返る
4	現代における死の問題	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：7章Dを読む 復習：尊厳死について自分 の考えをまとめる
5	文化人類学における文化	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：1章Aを読む 復習：「文化」について振 り返る
6	文化の諸相	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：1章Bを読む 復習：「自然」と「文化」 について振り返る
7	文化人類学について	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：1章CDを読む 復習：「文化相対主義」に ついて振り返る
8	個人と社会	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：3章Aを読む 復習：「個人」について振 り返る
10	家族 (担当者2人)	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：3章Bを読む 復習：家族について振り返 る
11	家族をこえた繋がり ：①親族	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：3章C①を読む 復習：親族について振り返 り
12	家族をこえた繋がり ：②コミュニティ	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：3章C②を読む 復習：コミュニティについ て振り返る
13	全体会	総合演習のオリエンテーション	全体会の準備をする
14	家族をこえた繋がり ：③国家	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：3章D③を読む 復習：国家について振り返 る
15	後期のまとめ	期末レポートの共有をおこなう	予習：期末レポートを書く ※ 期末レポートを授業 内で提出する